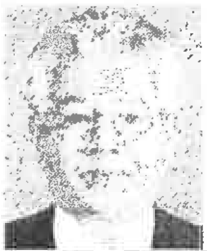
日本共産党桑名市議団　星野公平ニュース



号外　2015年　10月 13日
発行　日本共産党桑名市議員団　☎24－1310
発行場所　桑名市中央町2－37　桑名市役所議員控室
自宅　桑名市立花町1－14－7　☎22－2975

「桑名市寺町通り商店街」が紹介されます。

１０月１５日、１６日発行「しんぶん赤旗」（日刊紙）

自経済
（経済部＝川田）
©桑名商店街上
▽のまちづくりへ（上）
桑名市寺町通り商店街
p1枚
FG用10

「桑名市寺町通り商店街」は、ハマグリで知られる三重県桑名市（人口約14万3000人）の中心市街地にある商店街です。桑名別院本統寺の門前、約200㍍の通りに、和菓子や衣料品、仏壇など36店が並びます。高齢者への心遣いを柱にした街づくりをすすめ、経済産業省の「がんばる商店街」に選ばれています。

★暮らしを支える

「特売」「半額」などの札がはられた各商店の陳列台の商品を手に取り、熱心に品定めをする人たち。陳列台に交じって並ぶ野菜や干物、寿司などの露天から「朝どりの野菜はいかが」「おいしいお寿司だよ」と声がとびます。同商店街が毎月の3と8のつく日に開いてきた朝市「三八市」です。戦後から60年余り、住民に親しまれ、その暮らしと食を支えてきました。

「三八市」を訪れた独り暮らしの女性は、商店街備え付けのショッピングカートを押し、ゆったりと買い物を楽しみます。「若い頃から買い物はここ。足が弱って毎日は来れなくなったけど、野菜や服を売っているからね」と話します。自転車で10分と言う女性(78)は「『三八市』のときは必ず来ます。いろいろ買うので、お店で割り引きが受けられる『ふれあいカード』を活用しています」。

親子連れも多く訪れます。小学生の兄弟と自転車で来た母親(44)は「野菜が安いので助かります」と話します。

伊藤さきさん(70)は幼なじみの女性と2カ月ぶりに出会い、話に花を咲かせました。

「買い物と一緒に、知り合いに会えるのが楽しみです」と話します。

「三八市」は住民のコミュニケーションの場にもなっています。

★高齢者に優しく

桑名市では、郊外の幹線道路沿線や中心市街地のJR・近鉄桑名駅前などに、大規模小売店が出店しました。1973年から2006年までで31店になります。一方で、商店数は、94年時に比べて4割減少しました。とくに中心市街地で激減し、商店数が1けたになってしまった商店街も少なくありません。

平日の買い物客が減るなか、「桑名市寺町通り商店街」は03年、商店街有志が専門家、行政とともに商圏分析を実施。商圏は自転車等で15分程度と狭く、若いころから同商店街に買い物に訪れ商店街とともに年を重ねてきた高齢者がお客の中心であることが明らかになりました。以来、「高齢者にやさしい商店街」にと、とりくみをすすめてきました。

05年から、60歳以上の高齢者を対象にしたふれあいカード事業を開始。無料でカード会員になれ、普段の買い物の際にも振興組合加盟店で割引や景品などの特典を受けられます。3245人が会員になり、買い物時の楽しみの一つになっています。

座卓のように大きな椅子も置かれ、座っておしゃべりする高齢者の姿も見られます。商店街には、無料で利用できるショッピングカートも用意されています。

（東）（明）つづく（下）

（2回連載の予定です）

（了）

自経済
（経済部＝川田）
◎桑名商店街下
▽のまちづくりへ(下)
桑名市寺町通り商店街、
p1枚
RG済10

三重県桑名市の「桑名市寺町通り商店街振興組合」（佐藤博之理事長）は、高齢者とともに子育て世代への働きかけを強めてきました。「地元の商店街の存在を知り、親しみをもってもらえるように」とさまざまな取り組みをしています。

8年前から、商店街を会場に親子でお店の仕事やもの作りの体験ができる「てらまち体験学習フェア」を開いています。今年は6月21日に開催。アレンジフラワー（生花店）、腕輪や金箔（きんぱく）鉛筆（仏壇店）作りなどに約5000人が訪れました。

和菓子店では、かき氷づくり、ソフトクリームのクリーム巻きの体験に子どもの列ができました。従業員に手を添えてもらい「冷たいねえ」「うまくできるかな」と真剣な顔つきです。

魚介類のしぐれ煮を販売する店では、子どもたちがハマグリの串焼きに挑戦しました。「熱いね」とこわごわ焼いた串にかぶりついた子どもから、「うまい」と声があがります。

動物やクローバーの形に型抜きされた木に色をつけてキーホルダーをつくるお店にも子どもが押し寄せました。

和菓子店店主の後藤泰雄さん㊷は「商店街のファンをつくるという点で、プラスになっていると思う」と話します。

毎年秋に、市内小学校の3年生が商店街を訪れて買い物体験をする取り組みも心待ちにされています。約20年前に小学校1校から始まり、いまは市内全校（27校）で実施されています。

各店では普段の商品以外に子どもたちが100円、200円で買える商品を用意します。自宅へのおみやげの商品を買って帰った後日、家族と買い物に来る子どもも少なくありません。

店主が準備しての夜店も開いています。今年8月22、23の両日、夏の大売出しと「三八市」を兼ねて開いた「びっくり夜店」は約3000人でにぎわいました。

同商店街振興組合は、国のまちづくり事業や県の商店街活性化の補助金を活用して、自動体外式除細動器（AED）や発光ダイオード（LED）照明なども設置してきました。

★後継者がいない

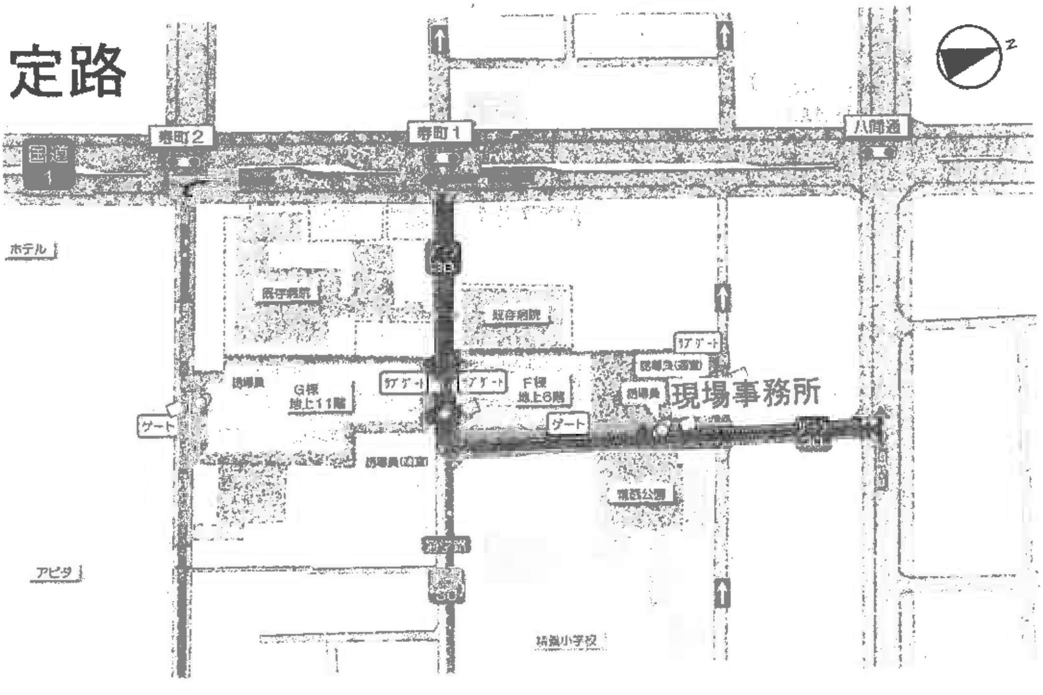
同商店街には課題もあります。店主の多くが70、60代ですが、後継者がいない店が多いことです。空き店舗や更地になった所があります。

振興組合は、大売出しのチラシに空き店舗情報を出すなどして、新規開業者も増えています。今年4月から手作りアイスキャンディー店を父親と営む稲垣量子さん㉒は、市東部から父の実家に近い同商店街に移ってきました。「子どもたちにお年寄り、いろんなお客とふれあえます」と話します。約2年前に飲食店を開いた男性㉟も「生まれ育ったまちで商売を始めたかった」と話します。

佐藤理事長は「お客さんがくつろげる飲食店、周辺のスーパーに対抗できる地産地消の生鮮品や総菜がそろう店を誘致して、子育て世代や若者にも支持される市で一番の商店街を目指していきたい」と話します。東員おわり明（了）

新病院建設工事が始まります。

特に工事車両には注意しましょう。何かあれば病院（２２－１１１５）か桑名市（２４－３０３９）か現場事務所へ

車両進入予定路